

第41回全国豊かな海づくり大会 兵庫大会～御食国ひょうご～

「広げよう ^{あお} 碧く豊かな 海づくり」をテーマに
令和4年11月12日(土)、13日(日)に兵庫県で開催

1 開催の意義

コロナ禍の収束が見通せない中、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」が令和4年11月12日(土)、13日(日)に兵庫県で開催されました。

兵庫県は日本の縮図ともいわれ、北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に続く紀伊水道の3つの海に面しています。また、兵庫県を構成する摂津、播磨、但馬、丹波、淡路といった5つの地域は、長い歴史の中で形成された特色ある固有の風土、文化を有し、それぞれの地域に根ざした多彩な農林水産業が営まれています。

兵庫県では海域の特性に応じた様々な漁業が営まれています。日本海では、沖合底びき網やベにずわいがにかご漁業などの沖合漁業を主体に、ズワイガニ、ホタルイカをはじめ、ハタハタ、カレイ類、ベニズワイガニなどを水揚げしています。また、瀬戸内海では、船びき網や小型底びき網などの漁船漁業を主体に、イカナゴ、シラスをはじめ、マダコ、マダイなどを水揚げし、またノリをはじめ、ワカメ、カキ、トラフグなどの養殖業も盛んです。

河川や湖沼では、アユなどを対象とした内水面



大会キャラクター「はばタン」



大会公式ポスター

漁業が営まれています。内水面漁業は水産物の供給だけではなく、釣りなどを通じた自然と親しむ機会の提供など、県民生活の豊かさを創出する様々な役割も担っており、水産動植物の増殖や漁場環境を保全・管理する活動を進めています。

本県では昭和57年7月に城崎郡香住町(現：美方郡香美町)において、皇太子同妃両殿下をお迎えし、「第2回全国豊かな海づくり大会」を開催しました。以後、県内各地で放流種苗の生産施設の整備や種苗育成・放流技術の向上に努め、栽培漁業を推進するとともに、稚魚育成のための漁場整備、さらには漁業者自らによる資源管理の実践など、豊かな海づくりに向けた多岐にわたる取

組を推進してきたところです。

他方、瀬戸内海では、高度経済成長期に進行した富栄養化の対策として水質規制等を推進してきた結果、水質は改善されたものの、窒素やリンなどの栄養塩類の不足が生じており、このため、近年、養殖ノリの色落被害が顕著に見られます。栄養塩類は海の生態系に不可欠なものであり、その不足はイカナゴをはじめとする漁獲量の減少にもつながる大きな要因と考えられ、水産資源への影響も深刻な状況です。

このような環境の変化を受け、本県では、海へ栄養分を供給するための漁業者の森づくり、農業者等と連携したため池のかいぼり（池干し）、さらに、生物の生息環境を改善するための浅場の造成や海底耕うんなど様々な活動を展開しています。

さらに、県内の下水処理場においては、基準の範囲内で下水処理放流水中の窒素濃度を引き上げる栄養塩類管理運転を全国に先駆けて実施するなど、栄養塩類の適切な管理の実現に向けた取組を積極的に進めています。

これらの取組によって、四季折々の豊かな水産物が将来にわたり安定的に供給されることを、漁業者のみならず多くの県民が切に願っています。

「全国豊かな海づくり大会」を再び兵庫で開催することは、豊かな海の創出に取り組む本県の姿を全国に発信し、その取組の輪をさらに広げ、全国の水産振興にもつなげる絶好の機会となりました。

＜主な行事の日程等＞

○式典行事 11月13日(日) 午前

場所：明石市立市民会館

○海上歓迎・放流行事 11月13日(日) 午後

場所：明石港ベランダ護岸

○絵画・習字優秀作品御覧、御懇談

11月12日(土) 夕方

場所：ホテルオークラ神戸

○関連行事「豊かな海づくりフェスタ2022」

11月12日(土)、13日(日)

場所：明石公園西芝生広場、あかし市民広場

○関連行事(サテライト会場) 11月13日(日)

場所：姫路市・妻鹿漁港、新温泉町・浜坂漁港、淡路市・道の駅あわじ

2 兵庫大会の特色

式典行事会場と海上歓迎・放流行事会場が近接している利点を活かし、多くの招待者が両行事に参加できる構成としました。



会場配置図

行事計画においては、兵庫県が目指す豊かな海の創出に向けた取組の発信と、海の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現を目指すことを本大会の基本理念に設定し、そのもとに基本方針として以下3つの柱を掲げました。

- (1)「豊かで美しいひょうごの海」の創出と継承
- (2) 力強い水産業の確立と地域の活性化
- (3)「豊かで多彩なひょうごの魅力」の発信

特に、企画・運営段階では、森・川・里・海のつながりや、私たちの日々の生活が海と陸との栄養の循環に大きく関わっていること、暮らしや社会の発展と調和した「豊かで美しいひょうごの海」を創り継承していくことの重要性など、次代を担う高校生をはじめとした若い世代が気づき、感じ、自らの言葉で伝えられるよう工夫しました。

また明石海峡や淡路島を望む風光明媚なロケーションで、漁業者自らが漁船団パレードを企画しました。

3 式典行事

天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、全国各地からの招待者など528人が参加し、式典行事を執り行いました。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、ホールの座席を左右1席空けるなど配慮しました(収容率50%以下)。

(1) プロローグ

兵庫五国と海を紹介するオープニング映像に続き、摂津・播磨、但馬、淡路地区の高校生がナビゲーターとなり、それぞれの地区の



プロローグの様子

漁業者や水産技術センターに取材した映像や伝統文化の実演を交え、過去から現在へと兵庫の海の歴史を振り返り、その現状を紹介しました。

(2) 式典

式典では、兵庫県立芸術文化センター芸術監督の佐渡裕氏と同センター所属のスーパーキッズ・オーケストラによる「Ray of Water 奉祝曲第一楽章『海神』」の演奏のもと、天皇皇后両陛下が御臨席されました。式典の開会に先立ち、長寿院保育園の先導で、県立香住高等学校海洋科学科の旗手団が入場し、小西隆紀兵庫県議会議長に大会旗を手渡しました。



天皇陛下のおことば



功績団体の表彰

続いて、田沼政男兵庫県漁業協同組合連合会代表理事会長の開会のことば、細田博之全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長）、齋藤元彦兵庫県知事の主催者あいさつ、泉房穂明石市長の歓迎のことばが述べられました。

天皇陛下からは「この大会を契機として、海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ兵庫県から全国へと広がっていくことを願い、挨拶いたします。」との『おことば』をいただきました（全文は別掲）。

功績団体及び作品コンクール受賞者代表の表彰に続き、作文コンクールで大会会長賞を受賞した廣田絵美さん（神戸市立東須磨小学校6年）による作文「須磨のりを育む豊かな海」の発表が行われました（全文は別掲）。式典後に両陛下からお声かけがあった廣田さんは「とても温かい気持ちになりました」と感想を述べてくれました。

次に天皇皇后両陛下から漁業者へ、マダイ、キジハタ、ノリ、アユの稚魚等がお手渡しされました。お手渡しの容器は廃棄漁網を再生した生地を使用して、国内最大の鞆の産地「豊岡市」でデザイン、製作されました。



最優秀作文の発表



稚魚等のお手渡し

そして、プロローグでナビゲーターを務めた高校生と漁業者、研究員が語り合いながら、豊かな

海の創出に向けた想いと決意をメッセージとして発信しました。

坂本雅信豊かな海づくり大会推進委員会会長（全国漁業協同組合連合会代表理事会長）が読み上げた大会決議を満場の拍手で採択し、大会旗を齋藤知事から次期開催地の鈴木直道北海道知事に引き継ぎ、小西県議会議長の閉会のことばで閉式となりました。



海づくりメッセージ

(3) エピローグ

大会テーマソング「いのちをつなぐ碧い海」を制作いただいたシンガーソングライター植村花菜さんが登場し、スーパーキッズ・オーケストラの演奏のもとテーマソングを披露いただきました。さらに未来へのバトンを受け継ぐ明石市立中崎小学校児童が、誓いと希望のメッセージを発表したほか、式典に出演した高校生や漁業後継者らとともに、テーマソングを手話で合唱しました。



エピローグの様子

4 海上歓迎・放流行事

式典行事終了後、招待者の皆さんには昼食会場に移動いただき、ひょうご五国の食材をふんだんに盛り込んだ大会公式弁当「御食国（みけつくに）ひょうご五国の味めぐり」を味わっていただきました。また、昼食会場前のおもてなしエリアでは、企業・団体等によるSDGsや豊かな海づくりの取組の紹介、次年度に予定されているデスティネーションキャンペーンなどの観光PRを行いました。



大会公式弁当



(1) 海上歓迎行事

直前まで降っていた雨が上がり、明石海峡大橋や対岸の淡路島が見渡せるようになった中、兵庫県立明石南高等学校吹



海上歓迎行事での様子

奏楽部、神戸市立須磨翔風高等学校和太鼓部の素晴らしい演奏とともに海上歓迎・放流行事が開会しました。まず漁船団パレードとして明石海峡周辺で日々操業している明石市の明石浦、林崎、江井ヶ島、東二見、西二見、神戸市の神戸市、兵庫、淡路市の淡路島岩屋、育波浦の各漁協に所属する約 100 隻の漁船団が招待者の皆様を歓迎するため漁船団パレードを行いました。

また、漁法紹介では、本県瀬戸内海側の代表的な漁法を紹介するため漁船 8 隻と漁業取締船、漁業・環境調査船が航行しました。



漁船団パレード



漁法紹介

(2) 放流行事

御放流の介添えは兵庫県立香住高等学校海洋科学科の皆さんに務めていただき、天皇皇后両陛下をはじめ参加者全員でマダイ、ヒラメの稚魚を放流しました。



介添えの香住高校生徒



御放流の様子

5 絵画・習字優秀作品御覧、御懇談

11 月 12 日（土）、大会行事の一環として実施した作品コンクール（絵画・習字）の優秀作品（兵



作品御覧



御懇談

庫県知事賞受賞作品）を天皇皇后両陛下に御覧いただき、受賞者の児童・生徒一人ひとりにお声をかけていただきました。

引き続き、県内漁業関係者や式典行事での功績団体表彰受賞者と和やかに御懇談されました。

6 関連行事

(1) 豊かな海づくりフェスタ

大会に合わせ、明石市内で「豊かな海づくりフェスタ 2022」を開催しました。

明石公園では、行政・漁業者が取り組む豊かな海づくり活動や企業・団体による SDGs の取組に関する企画展示・体験のほか、明石焼（玉子焼）や県内各地の特産品などの飲食・物産販売でひょうご五国や明石の魅力を発信しました。

さらに、第 1 次ひょうごお魚内閣の組閣発表や兵庫県立明石南高等学校の書道パフォーマンスなど、多彩なステージイベントにより、会場は、延べ 2 万人の来場者で賑わいました。

また、あかし市民広場では、豊かな海に関する企画展示を実施しました。



関連行事①



関連行事②

(2) サテライト会場

13 日（日）に開催された、ぼうぜ鯖祭り（姫路市・妻鹿漁港）、浜坂みなとカニ祭り（新温泉町・浜坂漁港）、淡路水産まつり（淡路市・道の駅あわじ）では、地元の水産物のふるまいや地元特産品の販売などが行われました。大型映像装置により、大会の様態を生中継し、県内全域で一体感のある演出を行いました。



サテライト会場

7 大会理念の継承

この大会を出発点に、大会テーマに掲げた「碧く豊かな海づくり」の更なる展開を図り、SDGs の理念にも通じる取組の輪を次世代につないでいくため、幅広い分野の事業者や県民が参画する新たな推進母体「ひょうご豊かな海づくり県民会議」

(仮称)を設立し、県民総参加による豊かな海づくりを推進します。

県民会議では行政や漁業者はもとより、企業やNPO、関係団体など、多様な主体が取り組む豊かな海づくり活動のネットワーク化を図り、団体相互の情報共有や活動の連携を促進するなど、豊かな海づくりに向けた県民参加の裾野を一層広げていきます。

また、「ひょうご豊かな海づくり推進大会」の開催や県民参加型イベントを開催するなど、各種団体が連携して取り組む県民向け啓発活動も更に積極的に実施する予定です。



豊かな海づくり活動
(ため池のかいぼり)



豊かな海づくり活動
(ビーチクリーン)

8 結びに

今回の大会は、宮城大会に引き続き感染症対策を講じた上での開催となりましたが、天皇皇后陛下の御臨席を賜り、全国から多くの皆様をお迎えして無事に開催することができました。とりわけ、高校生など次代を担う若い世代に御活躍いただき、豊かな海づくりの未来に希望を感じられる大会となりましたことは大きな喜びです。

1月には阪神・淡路大震災から28年を迎えました。これまでの御支援に対する感謝の気持ちを忘れることなく、大会テーマに掲げました「碧（あお）く豊かな海づくり」を漁業者や多くの県民の皆様とともに進め、SDGsの理念にも通じる取組の輪を次世代につないでまいります。

最後になりましたが、大会の開催にあたり、数多くの団体や関係者の皆様に御支援、御協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

天皇陛下のおことば

第41回全国豊かな海づくり大会が、昭和57年の第2回大会以来、再びここ兵庫県で開催され、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを享受してきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれます。この豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を適切に保護・管理し、次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命です。

高度経済成長の時代、兵庫の海も、水質汚濁の深刻化による赤潮の発生や、それに伴う漁業被害などの問題に直面しましたが、関係者の努力により、徐々に水質の改善が進んだほか、昭和57年に当時の城崎郡香住町で開催された第2回全国豊かな海づくり大会以降、県内各地で栽培漁業の推進、漁場の整備などが行われてきたと聞いています。

平成7年の阪神・淡路大震災では、水産業を含め、甚大な被害が発生しました。今日に至るまで、多くの被災者が共に助け合いながら復興を成し遂げ、その経験と教訓を将来にわたって伝え続ける歩みが進められていることに、心から敬意を表します。

現在、兵庫県においては、日本海と瀬戸内海で、それぞれの海域の特性に応じた多彩な漁業が営まれていると聞きます。また、瀬戸内海を豊かで美しい海として次世代につないでいくため、森、川、里、海のつながりの中で多様な生態系を保全できるよう、ため池の掻い掘りや海底耕うんなど、様々な意義深い取組が進められていると聞いています。

近年は、新型コロナウイルス感染症などの影響もあり、水産業に携わる皆さんの御苦労もいかばかりかと思いますが、本日表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに取り組んでいる皆さんのたゆみない努力に深く敬意を表するとともに、こうした活動が、今後とも多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待します。

「広げよう 碧く豊かな 海づくり」をテーマとして行われるこの大会を契機として、海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ兵庫県から全国へと広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。

大会決議

四方を海に囲まれた日本は、豊かな海の恩恵を享受し、固有の風土と歴史に根差した彩りある魚食文化を培ってきた。

ここ兵庫県は、北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に続く紀伊水道に面し、3つの海がもたらす四季折々の水産物は、食の多様性を育むとともに、地域産業の発展に重要な役割を果たしてきた。

私たち水産関係者は、環境・生態系の保全と水産資源の保護・管理に弛まぬ努力を続けると

ともに、国民への水産食料の安定供給を果たしていく責務がある。

本年は、ここ兵庫県において、「広げよう 碧く豊かな海づくり」を合言葉に、豊かな海の創造に取り組む姿を内外に示し、その取組の輪が広がるよう、新たな決意を持って、豊穡の海を守り育てていくことを、ここに決議する。

令和4年11月13日

第41回全国豊かな海づくり大会

作文「須磨のりを育む豊かな海」



みなさんは、須磨のりを食べたことがありますか。私が住んでいる須磨区は瀬戸内海に面していて、昭和の頃からのりの養殖が盛んです。今もとてもおいしいのりが採れることで有名です。

私はこの須磨のりが大好きです。食べるときに日にかざすと、黒色に光る不思議な模様が見えます。元旦に一の谷から眺めた、須磨の海が朝日に当たって、きらきらと輝いているのを思い出します。

なぜ、須磨ではおいしいのりが採れているのでしょうか。それは、山からの水が海に流れこみ、海の養分といっしょになります。そして、それらの栄養と潮の流れがおいしいのりを育てているからです。

また、養殖の仕事をしている人が頑張っているからです。九月には、のりの種付けが行われ、十二月に始まるかり取りまで、のりは大切に育てられます。新聞で須磨のりの記事を見かけると、冷たい海の中で仕事を頑張っている人のことを考えます。

しかし、須磨のりは平成二十年に生産量が大きく減りました。明石海峡で貨物船の事故が起こり、船から流れ出た油が海を汚してしまい、養殖業や漁業に大きな被害をもたらしたのです。その後は回復しましたが、今の状態にもどすまで大変だったと知りました。

私は学校で生物同士のつながりについて学びました。自然界では、動物や植物、プランクトンや微生物がたがいに支え合い、バランスを保ちながら、生きていることを知りました。そのため、一度バランスがくずれると、元にもどすことはとても難しいのです。

今は須磨のりを食べることができても、海とその自然のバランスが守られなければ、将来、須磨のりは無くなってしまうかもしれません。のりだけではなく、海が私たちに届けてくれる恵みも無くなってしまうかもしれません。

豊かな海を守るために、できることは何かと、考えました。

一つ目は、海と私たちがつながっていることを知ることだと思います。今年、私の学校は須磨海岸ビーチクリーンプロジェクトを行いました。先生や友達と須磨海岸を歩き、ごみを拾いました。海岸では、様々なごみが捨てられていて、レジ袋などのごみもありました。このままだと、将来、マイクロプラスチックが増えてしまい、環境に影響を与えてしまいます。最終的には人間の体に取りこまれることもあるそうです。海を守ることは、私たち人間を守ることににつながるのです。

二つ目は、海からの食べ物を食べ、多くの人に海に親しんでもらうことです。日本は海に囲まれているので、海の食べ物が豊かです。日本の海からの恵みを食べることで、身近な海のことを知ってもらい、海の自然に興味を持ってもらうことで、環境を守るきっかけにしてほしいと思います。

三つ目として、私が一番してみたいことは、海と山とのつながりを強くする取り組みです。私は須磨のりから、山の自然を守ることが、海の自然を豊かにすることにつながると知りました。私の通う小学校と山の自然が豊かな地域の学校との交流を行いたいです。私は自然学校で行ったハチ高原で、山の自然の大きさを改めて感じました。そのような所に住んでいる小学生と友達になり、交流したいです。それぞれの住んでいる地域を紹介したり、一緒に海や山でとれるおいしい食べ物を食べたりして、自然を守る工夫や知恵をお互いに学び合いたいです。

私は須磨で生まれて、いつも海を身近に感じています。須磨の美しい風景と共に、その豊かな自然と恵みがこれからもずっと無くならないでほしいと思います。

神戸市立東須磨小学校6年 廣田 絵美